



令和8年3月17日

去る3月14日(土)に行われた清水保育園・清水博多駅東保育園の卒園式は、笑顔と涙に包まれた心温まる式典となりました。

本園きく組さん・駅東きくA組さん、ご卒園おめでとうございます。

そして家庭保育にご協力を頂きましたひよこ組からさくら組の保護者の皆様、誠にありがとうございました。

さて、令和7年度最後の清水だより3月号の巻頭言は、卒園式での統括園長挨拶と本園・駅東の卒園児保護者代表挨拶を掲載します。

統括園長挨拶は『当日は感極まって半分も話せなかった!』とのことですので(笑)、卒園式にご参加された方も是非お読みください!

巻頭言の後には、事務室からのお願い・今月の歌・行事を載せています。今年度最後の早お迎いの連絡等、大切なお知らせもございますので、どうぞ最後までお読みいただけますと幸いです。

【巻頭言】

卒園式 統括園長挨拶

清水博多駅東保育園 第9回卒園児の皆さん

清水保育園第16回卒園児の皆さん

ご卒園おめでとうございます。

良い子のみなさんは、今一人一人卒園証書をいただきましたね!

清水保育園で腰骨を立てて過ごしました。

挨拶を自分からすること。

返事はハイッとすること。

履き物は揃えること。

椅子を入れることができるようになりました。

これらの行動を通して、

人に迷惑をかけない心

人に親切にする心

自分からする心が育ちました。

心は目に見えませんが、今、腰骨を凛と立てて目を生き生きと輝かせて座っている姿から、皆さんのところが園長先生には見えます。

本当に大きくなりました。

小学校に行ってもこれだけをやり続けてください。それだけで、沢山のの人に愛される素敵な調和のとれた人になれます。

保護者の皆様

本日はご卒園おめでとうございます。

今日のこの佳き日、保護者の皆様に最後のご挨拶をさせていただきます。

想いは沢山ございますが、何よりもお伝えしたいことは感謝の気持ちです。

長い方は6年6カ月間、短い方は1年間、保護者の方々にとってかけがえのない大事なお子様を、この清水保育園を信じ預けてくださった事、そして清水保育園の一番の応援者でいてくださった事に心から感謝申し上げます。

保護者の皆様の信頼があったからこそ、私共は保育に集中し、立腰を軸とした様々な保育を展開することができました。

保育とは、生活そのものです。

保護者の皆様のお子様への願いや思いを汲みとり、昼間の保護者の代わりとなって責任を持って生活を通して保育を行ってまいりました。

子どもたちの成長を共に喜び、時に成長の過程で起きる問題行動においては、「大人が変われば子どもも変わる」の考えのもと、面談などをさせて頂きながら一緒に解決策を見出してきました。

子育てに答えはありません。

「真理は現実の中にある」机上の空論ではなく目の前の子どもが生き生きと輝いているか——ここに焦点を合わせて保護者の方々と共に歩んできた私は思っております。

さて、4月からはよいよ小学校へご入学ですね。まだまだ子育ては続きますが、今のこの目の前のお子さんの姿はまぎれもない真実です。

卒園児保護者代表挨拶(本園)

ここに立つ保護者ひとりひとりが 様々な思いをもっております。私の言葉では到底足りませんが 保護者を代表して 僭越ながらご挨拶申し上げます。

冒頭個人的な話で恐縮ですが 長男が2012年に入園し3きょうだいの末っ子である娘が本日卒園を迎えるまで10数年の月日が流れました。30歳前後だった私たち夫婦も40代半ばとなりました。

「子育ては黄金期」という園長先生の言葉に心から同意できるようになったのはようやく最近のことです。目まぐるしく過ぎる日々 その中で突きつけられる親としての未熟さを感じ子育てを楽しむ余裕がなく 溜息と涙もありました。

おむつを外すのも はしの持ち方も 先生方に頼りっぱなしでした。先生方のご協力なしに私たちの子育てはありえませんでした。思えば 子どもの成長だけでなく 私たちの親としての成長にも伴走くださった先生方には 感謝してもしきれません。理事長・園長先生 担任の松田先生 吉岡先生をはじめ 歴代担任の先生方 お集まりの先生方 子どもの健康を支えてくださった給食の先生方 職員の皆さま またご退職等で今この場にいらっしゃらない先生方 本当に多くの方が 子どもたちと私たちの成長に関わって下さいました。すべての先生方に ころより深く御礼申し上げます。

きく組となり 松田先生と吉岡先生が担任と聞いて喜んでいたあの日から あっという間に1年が経ちました。松田先生 吉岡先生が わくわくデーや運動会 芋ほり遠足などの行事のたびに 子どもたちだけでなく 私たち保護者も楽しませようと 心を尽くしてくださる姿に いつも頭が下がる思いでした。

発表会等の準備と本番までの道のりを「お山にのぼる」と表現されていましたが 36人の子どもたちを先導して山を登った松田先生 吉岡先生は どれほどのお気持ちで 子どもたちを導いて下さったかと拝察いたします。先生方と一緒に「お山」に登るたびに 子どもたちは大きく成長し 家では見られない姿を たくさん私たちにを見せてくれました。先生方とともに過ごした日々が 子どもたちのこれから の人生の糧となり 豊かな実をむすぶよう 親として これからもしっかり支えていきたいと思っております。本当にありがとうございます。4月からは 毎朝笑顔で出迎え 我が子の頬に手を添えてくれる先生方とお

これから先、目に見える行動や態度は成長と共に変化していきますが、この幼少期という人間形成の原点期に当たる時に調和のとれた人柄の土台を作ることを目的とした立腰教育を毎日例外なくやり続けた事実を忘れずにお子様を信じてあげてください。

この立腰教育を通して蒔かれた目に見えない心の種は、いつの日かその子なりに必ず花開く時が来ますので信じていてください。

それまでは、毎日太陽の光と水と適宜肥料を与え続けてください。

最後に、いつも繰り返し言い続けてきたこの話をして締めくくりとさせていただきます。

躰の適齢期は、『つ』のつく9つ(9歳)まで。小学生1年生から3.4年生までは最後の躰の時期であり、特に学問の躰の時期でもあります。国語の教科書がすらすらと読めるように、算数においては分数まではしっかりと理解できるように、寄り添って勉強のお付き合いをしてあげること。

忘れ物をしないためには、忘れ物をしないコツを一緒にやりながら教えていくこと。

それ以降は思春期の入り口に入っていくこと。そこから親は何も言わない努力をしていかななくてはなりません。18歳から20歳で子育ての終了を迎える時に「今までありがとう。そして完璧な親でなくてごめんね」と言ってあげてください。大人になった子どもがその時になんとってくれるでしょうか…。その日を夢見てこれからはばらく続く子育てを楽しんでください。

そしてご来賓の皆様、今年度、清水保育園・清水博多駅東保育園を卒園する48名の子ども達は福岡市内外の23の小学校に分かれていきます。

卒園後もどうぞ、立腰っ子と子育て真っ最中の保護者の方々を見守ってくださいますよう、事をお願い申し上げます、甚だ簡単ではございますが私よりご挨拶とさせていただきます。

最後に、清水家族が集うこのホールにいらっしゃる皆様の益々のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

社会福祉法人 凜の会
統括園長 江寄 尚子

会いすることもなくなります。いつもより遅くなって
お迎えに一方通行を急ぐことも 帰りに吉野公園で
遊びたいとせがまれることもなくなると思うと 親の
方が寂しがっております。

子どもたちが生きるこれからの時代がどうなるの
か 想像もつきません。しかし どんな時代や社会が
訪れようとも清水保育園で先生方から頂いた愛と
魂に導かれ 子どもたちは 強く正しく 育てくれる
と信じています。

そして、子どもたちへ。大きくそだってくれて、ありが
とう。十分にいい親であったかはわかりませんが
わたしたちなりにがんばりました。君たちが大きくな
るのはうれしいけれど もうすこし だっこともさせてく
ださい。みんなは小学校ではなればなれになります
が 必ずまた会えます。小学校の先生の話はよくき
いて 私たちにはまだまだたくさん迷惑をかけてくだ
さい。それが私たちの 親としてのよろこびです。
「黄金期・小学校編」をこれから一緒に楽しみまし
ょう。

最後になりましたが 社会福祉法人凜の会の一層
のご発展 先生方のご健勝とご活躍 そして縁あっ
てともに時を重ねた清水家族の皆様の幸福な日々
が いつまでも続くことを祈念いたしまして 御礼と
はなむけのご挨拶とさせていただきます。

第 16 回卒園児保護者代表
垂見 直樹

卒園児保護者代表挨拶（駅東）

やわらかな春の日差しを感じられる季節となりました
。本日この佳き日に、このような心温まる卒園式
を執り行っていただき、誠にありがとうございます。
こうして無事にこの日を迎えられましたことを、胸い
っぱいの思いで受け止めております。

理事長先生、園長先生をはじめ、ご準備いただき
ました先生方に、保護者一同、心より感謝申し上げます。
僭越ではございますが、保護者を代表いたしまし
て、感謝の気持ちを述べさせていただきます。

思い起こせば、初めての保育園生活は、新型コ
ロナウイルスの流行により、入園延期や登園自粛、
マスク生活という、これまでに経験したことのない状
況の中で始まりました。日常が当たり前ではなくな

ったあの頃、できる限りの工夫と暖かなご配慮で子
供たちの毎日を支えてくださいました。小さな子供
をもつ親として不安な日々、温かく迎えてくださる先
生方の笑顔に心が救われておりました。

ひよこ組からはと組へ、ばら組からも組へ、さくら
組からき組へ、運動会や発表会では、指先・足
先、視線までまっすぐ、堂々と自信をもって取り組む
真剣な表情や、出来なかったことができるようにな
った輝く笑顔、私たち保護者は何度も胸を熱くし、
大きな感動と喜びをいただきました。

また日々の園生活では腰骨を立て、姿勢を整える
ことは、心を整えることでもあると教えていただき、
毎日の聞く姿勢、集中する力や最後までやり抜く力
を身につけることができました。

このかけがえのない時間を、先生方の温かい愛情
と深いご理解をもって支えていただき、入園した頃
の小さな姿からは想像もできない程、心も体も大き
く成長いたしました。

親として、時に未熟で至らない自分自身そのもの
を当然のように疑いもせず、いつでも一番大好きで
いてくれる我が子に、どれだけ救われ、教えられてき
たと改めて思わずにいられません。

我が子を育てながら、自分自身も育てられている
と実感しています。

そして、子どものおかげで、今まで知らなかった感
情、行くことのなかった場所、興味を持つことのなか
った世界、そしてこの清水博多駅東保育園の先生
方、毎日同じ教室で過ごしてきた十二名のお友達、
お父さんお母さん方、沢山めぐり合わせてくれまし
た。お友だちと笑い合った日々は、子どもたちの心
の中で、いつまでも大切な宝物であり続けることで
しょう。

俵万智さんの短歌

「最後とは 知らぬ最後が 過ぎてゆく

その連続と 思う子育て」

抱っこで登園した日々も、泣いて離れなかった日々
も、よちよち歩きで登園した日々も、バイバイと無邪
気な笑顔で見送ってくれた日々も、アンパンマンが
大好きだった日々も、イヤイヤやトイトレ・・・子育てで
悩んだ日々も、その瞬間はただの“いつもの日”な
のに、終わりの鐘が鳴らないまま、数えきれないほ
どの「最後とは知らぬ最後」が過ぎていきました。

けれど、気づかぬうちに過ぎていった、「最後」の
一つひとつが、まぎれもなく記憶の中の宝物です。

まさに「子育ては人生の黄金期」

3月の行事

- 3日(火) 雛祭り・誕生会(全クラス)
- 5日(木) 避難訓練
- 12日(木) お別れ会
- 14日(土) 第16回卒園式
- 19日(木) 修了日
- 23日(月) 新クラスへ引越・担任発表
- 24日(火) 新担任と新クラススタート



事務室からのお願い

3月保護者負担金の口座振替

月分	Line 通知	引落日
2月分	2/13頃	2/26(木)

※残高不足等で引落が出来なかった場合、コンビニ払いでのお支払いとなります。その際発生する手数料もご負担頂く事になりますので、引落日前に残高のご確認をお願いします。

行事前のお迎え時間について

本年度最後の早お迎えのお願いです。お仕事のご調整等何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

行事	日付	お迎え時間
修了日当日	3月19日(木)	16時まで

♪今月の歌♪ 思い出のアルバム

いつのことだか おもいでしてごらん
あんなこと こんなこと あったでしょう
うれしかったこと おもしろかったこと
いつになっても わすれない

一年中を おもいでしてごらん
あんなこと こんなこと あったでしょう
桃のお花も きれいに咲いて
もうすぐ みんなは一年生

刻一刻と近づいてくる巣立ちのときに向けて、子育ての一瞬一瞬を、いとおしく感じながら大切に過ごしていけたらと思います。

今日、ここから子どもたちは新しい一步を踏み出します。誇らしい気持ちと同時に、正直、寂しさで胸がいっぱいです。

でも、この保育園で腰骨を立てて過ごした日々、先生方に注いでいただいた愛情は、これから先、子どもたちがつまずいた時、立ち止まったとき、身についた姿勢と築いてきた心の土台が、必ず子どもたちを支え、力強く歩んでくれると信じています。

最後になりましたが、清水博多駅東保育園のますますのご発展と、先生方のご健勝ならびにご臨席の皆さまの健康とご多幸、そして、卒園する子どもたちの未来が希望に満ち溢れたものでありますよう、心から祈念いたしまして、御礼の言葉とさせていただきます。

理事長先生、園長先生、担任を受け持ってくださいました山中先生、甲斐先生、花盛先生、山村先生、そして根間先生、関わってくださいました先生方、たくさんの愛情を、本当にありがとうございました。

第9回卒園児保護者代表
後藤 恵里

—— 統括園長より ——

保護者代表のご挨拶を頂きました垂見さん、後藤さん、温かなお言葉をありがとうございました。凧の会職員一同、心より感謝申し上げます。

そして、この場をお借りして、令和7年度凧の会運動会で保護者代表挨拶を頂きました本園きく組の園田さんにもお礼を申し上げさせていただきます。

園田さんのご挨拶の中に『心揺さぶられる日々こそがまさに人生の彩であり、私たちにとっての黄金期』という言葉がありました。

清水保育園の存在が保護者の方々の心に少しでも彩を添えることができたとするならば、これこそが私の本望でございます。

ありがとうございました。